（昭和五年五月二十四日 第三種郵便物認可）　昭和十四年三月十五日　千曲時報　第百八號　（一）

毎月一回十五日發行（定價一部五錢一年郵稅共五十錢）

上田蠶絲專門學校

編輯兼發行人　香山清和
發行所　長野縣上田蠶絲專門學校
印刷所　長野縣上田市曲町　中澤印刷所

滿支旅行漫筆

Y K 生

一、プログラムの辯

戰時體制下にある中、北支を旅行するのに一定のプログラムを樹てろと云ふ、之が隨分無鐵砲な冒險的な要求であると思ふ。

一體、支那とはどんな所か？　自分は少しも知らないし、地圖の上に走つて居る汽車は、實際は通つて居るか如何かも判らないし、未だ何と云ふても血醒い戰禍の跡であるのだから、行く先き先きで思ひ設けぬアクシデントに遭はぬとも限らないし、其の場其の場の足任せにするより外に道は無いと思つて居た。

でも、大體定めろと云ふから大ざつぱに定めて見た。勿論數理的な尺度等あつてのことではない。中支に何日、北支に何日、滿洲に何日、十二月幾日に出發するから滿洲に入るのは幾日ていの危險きはまりないものであつた。こんな非良心的なスケジュールを滿鮮の要所要所に配つて出發して了つたから、滿鮮在住の同窓各位に慮らざる旋風を巻き起こさせたのも無理からぬことである、其の罪萬死に價ひすると云ふ可きである。

此の物騷なプログラムに據ると、僕の奉天訪問は十二月十九日とある。

之で旅行どめを食つた湯川支會長は、奉天に姑く釘着せざるを得なくなつた。公用で北京へ出張の歸途、運悪く來合はせた新京の要人濱兄も、忙がはしい中一兩日を奉天に抑留させて了つた。岡崎兄は朝鮮境の安東縣から長い道中未だか未だと二度も足を運ばせたと云ふ。熊岳城、蓋平、海城の諸兄にも無駄な手數、要らぬ心配を少なからずかけさせた。がマの油屋が、待ちきれず時々奉天に其の姿を現はし、例のチョボヒゲを左右縱横に躍動させて、各方面に「無軌道日本人未だ來らず」と放送して連絡してくれたのは有難かつたが、其の尻にドンな惡口の景品を着けたか判りやしない。

朝鮮からも照會は來る、まさか支那から越境失踪したのでもあるまいがと心配させつゝ年が明けて了つた。

そして其の頃、僕はまだ豫定の半分にも達して居なかつた。杭州の錢塘江あたりの鐵橋の上を、コワイモノ見たさにビク〳〵と彷徨ついて居た頃である。而して之からは全く內證な報告ではあるが——。

僕と同行二人の一人として登場する白澤幹君こと白大人が、之が却々の大陸人で、豫定等と云ふ月並な羈絆に律つぜらるべき生やさしい軌道車ではない。僕の樹てたスケヂユール等一瞬にして踏み潰す猛烈果敢な無軌道車豆タンクなのである彼大人はかく云ふ。

——度々來るのでないから出來るだけ澤山の智識を吸收して行け！　ナニ豫定！　日本の安穩下に樹てた豫定等此の戰時體制下に糞の役に立つものか！　ナニ！滿鮮の諸君を待たしては申し譯ないつて！君は未だ此のスケールの大なる大陸を把握して居らん、大陸育ちは包容力が違ふソンナ小さなことにコセ〳〵するものかそれに、支那を旅行して豫定通りにいかないなんて云ふことは吾々より餘程良く知つて居る筈だ！　ナニ！其所は危險ぢやないかつて！　危險な所に入らなければ虎兒は獲られない、支那の良い智識と眞の理解とは今は危險な所以外には轉つて居ない、占領地帶の日本化を其の儘謳歌する事は危險極りない、彼等の僞瞞、阿諛、便佞の下にうごめいて居る復雜深刻なる苦膩をほじくり出さなくてはいかぬ、なんでも良いから跟いて來い！

萬事此の調子である。僕たるもの、命之從ふより外手はないではないか！　白大人によつて與へられた利益の大なる手前、少々口巾つたい言ひ草ではあるが、僕の日本的なパンクチュアリテーは彼れ豆タンクの蹂躙に遭つて長江の流れに棄てられて了つた。此の邊、大に大陸人に洗練されたわけである。

どつちに廻つても今回の旅行は豫定とは緣遠いものであつた。長々と豫定不履行の辯を述べたてた。

二、滿洲の第一印象

北京を一月一日の夜八時半に發つて翌二日正午奉天に着いた。驛には湯川支會長並に益淵、小松兩御夫妻の御出迎ひを受けて互に溫い握手を交換し無事の入滿を祝つて貰つた。

驛頭の此のなごやかな會見に、紅二點の日本女性を加えたことが、滿洲の第一印象を一層多彩に潤色し且つ非常に明るい感じを與へてくれた。

事實、此所へ來る迄の中北支の旅行は實に乾燥無味そのものであつた。病氣や危險から自分を守るきびしさは片時も心を許すことが出來ないし、周圍の人々に對しても、ともすると薄氣味の悪い猜疑の眼で向ひ合ふ心持ちを如何することも出來ない。善良そうな支那農民に隣りしてさへ、ある危險なスリルを感じたり、彼の心の奥底にひそむ憎忌の度を尺らふとする。吾れが果して戰勝國民か！と思ふことが屢々であつた。被征服國を濶步するやうな安易は微塵も持てない。何か未だ其所等中に餘燼が燻つて居て常に心に鎧着て步かざるを得なかつた。

所が、滿洲へ入つて來ると此の感じはガラリと違ふ。どことなく非常に氣易さを覺え、自然心も解けて來、丁度日本內地を旅行するやうな屈托無さである。たまに粗暴そうな滿人に會つても、少しの危險を豫覺しないで平然と向ひ合ふことが出來る。

滿洲は、支那から入ると正に王道樂土である。日本から入つても王道樂土たる點に於て相違はあるまいが特にその感銘が深いと云ふことである。

北支は運轉、車掌共多くは支那人によつてなされ、特に支那のボーイが何回も熱い茶を運んで來てくれるあたりの風景は、微笑ましいかぎりである。つまり舊支那鐵道員が採用されて日本の驛員となつたわけで、北支の明朗化を物語つて居る證據である。然しそれでもまだ血醒さい話はきくことがある。

——車中、日本の車掌さんが、一般來客に對して如何に鐵道守備隊が困難と戰つて居るかと云ふ事を具さに話してくれるが、それをきくと暖かく車中に在る吾が身が氣恥しくなり、守備隊の兵隊さんに對し自ら頭の下がるを禁じ得ない。

滿洲の鐵道は凡ゆる組織に於いて日本と更に變りが無い。いや日本の鐵道所か乘心地の良い點に於て、內部の寬容な點に於いて、スピードアップされた點に於いて斷然日本の鐵道を凌駕して居る。そして兵隊さんの守備隊もどこにも見られない。

此の三地の鐵道狀況は大體治安維持の事情を物語るものである。日本治下になつて中支は丁度滿一年、北支は二年、滿洲は事變後七ケ年を經て居る。尤も滿洲は二十ケ年近くの滿鐵的訓練は經て居るが、日本人の拮据勉勵の結果僅かな年代に滿洲國をかく王道樂土に造り上げたが北支中支も亦或る年限の末には、必ず第二第三の滿洲國を造り得る實證にも見えて大變に心强く感じた次第である。

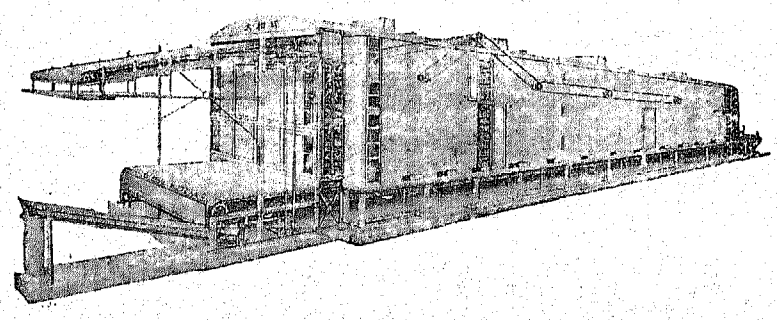
こんな理由で滿洲の第一印象は恐らく實質以上によく見えたかも知れない。爾來全滿旅行中此の好印象は破られなかつた。

入滿第一歩を印した奉天で、紅二點の女性を御紹介して置いたが、海城、熊岳城、開原、新京に至るに從つて紅十數點

現代乾繭機界ノ王座

大和式自動輸送乾繭機

二五九九年代表型



【各種型錄贈呈】

營業課目
特許大和式自動輸送乾燥機
特許大和式自動人絹乾燥機
特許帶川三光式乾燥裝置
特許やまとホイロ
特許サンコー式濾過淨水裝置
特許サンコー式廢湯吸熱器
特許サンコー式高壓ポンプ
特許サンコー式トラップ

製作發賣元
株式會社
大和三光商會
東京京橋區京橋三丁目二番地
電話京橋(56)五三二〇番

の異性を御紹介しなければならない責任を感じて來た。こと程左様に會員の奥さん方に御厄介になつた。僕の見た眼では滿洲に於ける夫妻間のフアミリアリテーは内地の夫れと比べて甚だしく高率の濃度を有つて居るやうである。公用以外の仕事は多く夫妻共同で辨ずる。一寸の汽車旅行、散歩等にもアベックで出かける之こそ眞のベター・ハーフとでも云ふべきものか、畢竟外地に於ける人々は誰でもそうで無意識的な自己防衛の結界も大いに與つて力あろうと思ふ。何れにしても餘り夫妻仲の良くない内地人等に滿洲居住が融和劑として役立つこと請け合ひである。

三、猿が木から落ちた話

—北京、奉天間の國際列車エピソート—

北京夜八時半發奉天行急行に僕だけ一人先に乘り込んだ。北京ホテルのポーターは、荷物を四ケ全部持つて來てくれたし、寢臺車は下段二人向ひ合つて取れては居るし、之で山海關の稅關だけ無事に通ればあとは奉天だし、まづメめたものだと大いに安心してどつかりクッションに腰を下ろした。北京驛も之が最後かと思ふと限りなく名殘りが惜しまれる。眼を構内のあちこちと遊ばせながら、ヒタリと時計にとめて見ると已に八時二十五分を示して居る。白大人は未だ來ない、その時始めて之はてつきり後れるなと云ふ不安な豫感に襲はれて來た。五分間の間改札口から構外迄コマ鼠の如く走り廻つたが遂にあの痩身矮軀の日本紳士を見かけることが出來なかつた。發車の笛がなつた時、辛つと最後の列車に飛び付いて自分のシートにもどつたが、眼の前に放り出された此のトランクの一番大きな奴を如何して稅關にかけるかゞ一問題になつて殘されて了つた。之だけが白大人のもので、しかも鍵がないし、中には無札で通つて來て居る立派な寫眞器が一器こつそりと藏はれてあるのである。だが僕のことは別として、白大人の木から落ちた話をしやうと思ふ。

北京も、ことほぐ已が春で、湯澤公館の應接間も杯盤狼藉の賑やかさである。前内務次官現北支最高顧問湯澤三千男閣下を初めとし之を圍む政府要路の人々、夫れに立交つて吾が白大人もいとも御機嫌よく白頭山節かなにかを微吟しながら杯を重ねること實に數十行、汽車の時間等とうの昔に吹き飛ばして居る。さて、興も追ひ追ひ下火になつた頃、偶と汽車を思ひ出し、ボーイの着せてくれる外套を其の儘引きかけて洋車を驛に飛ばした所、汽車がすんでの事に發車しやうとする瞬間に駈けつけて辛くも間に合つた。然るに此の汽車たる、偶然にも約二時間後れて十時半に發つ奉天行きであつたがもう時間や寢臺番號や、僕のことや荷物のこと等問題でない。ボーイがぐず〳〵云ふのもきかず、寢臺を吾が世界とばかり白河夜船に寢て了つて。遂に山海關迄來て了つた。山海關で稅關檢査があるから起こされた。漸く人心が着いて昨夜の糸をたぐつて見ると、走馬燈のやうに次から次へと出來事が甦つて來、ボーイに聞いた實證に照り合はせて全貌が吾が意識下に現はれて來る。其處で一番心にかゝるは、例のトランクの事であるが、きつと山海關稅關にでも預けて行きやしないかと出て見る氣になつた。出やうとして外套を着た所、何と其の外套がアストラカン付きの實に立派なものではないか！　不思議の夢は未だ醒めない。兩ポケットに手を容れた所、驚くべし右手からは聯銀紙幣が小千圓も札束の儘であらはれて來るし、左からは小錢の銀貨を一杯に孕んだ巾着が一箇表はれて來た。外套の名前を見れば某高官の秘書で、最前迄上機嫌で得意の万才を踊り且つ唄つた四十がらみの立派な紳士のものではないか着せてくれたボーイの責任もさることながら、之が判らない程醉眼朦朧たる誰かの責任が餘つ程大と云ふべきである。とつおいつ思案の末、稅關に餉つた所聯銀の國外搬出は絶對まかりならんと云ふことになり、之を持ち歸へるより外に手段が無くなつて了つた。それに、秘書君も切角貰つたボーナスを全部、万才を踊つて居る間にもつて行かれたでは家に歸つて申し譯けも立つまいし、と思ふと非常に氣の毒にもなるし、國際信義覩もムク〳〵と頭をもたげて來、よし斷然歸つて日本人の正義を示してやろうと、それから寒い山海關で二時間も待ち又々北京へ引き返へして了つた。何と此の間が日本で云ふと東京京都間位ある。間違ひにしてもスケールの大きい間違ひではないか歸つて行つたら青くなつて家へも歸れず に居たアストラカン氏も非常に喜んで又飲み直したことは勿論であるが、白大人遂々木から落ちて又々豫定を一日も狂はして了つた。

四、華中蠶絲の行き方

支那の蠶絲業は華中蠶絲株式會社で統一して居るだけである。勿論之は日本の勢力範圍内のつの方法が、而して華中の行き方に二けると軟派と硬派とはあると思ふ。無理に名前を付と硬派と之である。硬派とは何でも免許制度とし、しかも之を飽迄徹底せしめる方法で、一方に銃劍を持つて居る要がある。軟派とは表面は兎に角として害の兩面を適當に支那人を利用し利害の代りに支奪方が分擔し合ふ方法で銃劍で支那を熟知する人的要素が必要である。硬派は日本の所謂官僚的な行きされ勝ちでは、軟派は中樞機關の主腦部はならない が、軟派は中樞機關の主腦部多くは自分了解した人が居なければ出嚢を藉す。方何れの行き方が最後のゴーるかは時が之を證明してくれ南貿の妙味只に現下の支那蠶絲業も、租の適當量をに大きな様な存在によつて兎角攪き亂ひをすると の三分の特性を有つことを忘れて支那人の商て租界内。そして租界に住む外人連は れば支那人新しい工では手を下さないで資本と智今日の租界が匪賊に支那人を巧に使つて彼等にも を形成する つまり土を體得せしめ自分も其の利益民の製産市に反抗す 得て其の利益をさめる 出來ない。州できない。 そのために 此の話は 支那人が 服も大きい 之を要約す 米資本家の は如何か？ 良を加へて 支那を牛に 酷使して早く生命を縮めたり、肉を屠つて一きよに利益を決するは愚策であつて乳牛として長く利益の配分を受くることが策の上々たるものであると云ふことである。蠶絲業と雖も乳牛たらしむるの上策たること言を俟たないと思ふ。

養蠶業の盛んな地方は多くは山間部で賊徒の往行も甚しいから、繭の買入れ等に非常に不便である。蠶種製造業者は日本と同じく、農民階級の最も インテリーに屬し、相當バッチリした眼を持つて居るから無理强いにする事が如何かと思ふ矢張り軟派で行く要はないか！

現下の華中の政策は、硬派のカチ〳〵の様だが、自然の勢ひで適當の軟派が加味されて適當な爲業政策が出來てくると思つて見て來た。

第十二回千曲會代議員會議事抄錄を見て

在洛　同人

昨年十二月二十四日我々京都市在住の千曲會員有志相集り、吉田山なる某亭に集りて忘年會兼懇親會を催した。一年一度の会を中心とした事柄についてそれからそれへと話の花が咲いた。偶々論題は千曲時報第百五號所載の第十二回千曲會代議員會議事抄錄に移り、何れ劣らぬ母校愛に燃へた連中とて、各種の問題につき熱心な論議が繰返された。斯様に熱烈に母校を愛する人々の意見を掲載し、大方の御批判を仰ぐ事も母校並に千曲會發展計畫上無意義ではなからうと考へて、當日意見の一致を見た事項の大要を本紙上を拜借して申述ぶる事にする。

一、蠶絲業の狀勢に鑑み母校の教授課目及訓育方針を一層適切ならしむる樣要望の件

本問題に關する東京支會の提案に衷心より贊意を表するものである。然し乍ら教授科目及び訓育方針の改善と共に最も必要なる事は直接之に當る指導者にその人を得るにある。就而は本問題に關しては農林蠶絲に關する知名の大家或は斯業に關する學識、經驗優秀なる人材を以て其の位置を充足する事が最も肝要である。適材を得ずしては制度、方針の改善も充分なる効果は發揮し得ない。例へば東京高畠氏の意見にもある絲價安定施設法、原蠶種國家管理法、或は東京八木氏の經濟科目に蠶絲政策を盛る事を要すること等は洵に適切なものであるが、之等を實行して一箇かれた一節に書かれた「上海瞥見」と題して、できた○○蠶絲がやはり合辨くからあつた會社をその手に と共に マユの買付獨占權を値をたいた。 にその邊と上海とではマユ價開きができ、今では其邊の繭二は上海へ逃げて行く。そして外國資本と結んでどんどん場ができて居る。○○同鄕會金を送つてゐるといふのは、着資本が日本の資本のやり口る一手段としてである。—蘇た語—とある。

現地に行つたものは第三者又ら誰もきくことであつて、誇が事實も事實のやうである。ると、軟派な行き方をして歐如く支那の國民性を利用して日本人的な潔癖性に少々敬は如何かと云ふことである。例へた話は良くきく話である

所期の目的を達成せんが爲には母校農業蠶絲經濟擔當の教授は少くとも蠶絲に關する學歴、研究或は實務に於て權威あるのみならず人格亦優れたる人材を以て充足せねばならぬ。之に關しては千曲會幹部に於かれても母校當局に於かれても深甚なる考慮を拂はれん事を切望して止まぬ次第である。

二、針塚賞設置に關する件

針塚賞設置の趣旨は贊成である。然し乍ら其の運用に關しては更に一考を要すべきものがあらうと考へられる。第一に其の授賞に就ては、完成したところの研究に對して之を與へるよりはむしろ斯業上肝要なる研究の完成促進を助成する目的を以て交付する方が一層有意義と考へられる。第二に人材の養成も廣義に於て學問の發展に資する事が大であるから、該方面にも之を使用する事も考へらるべきではなからうか第三に海外留學資金並研究奬勵金等が既に設置されて居る由なるが、現在如何に用ゐられつゝあるのであらうか、之等の使用の趣旨も結局は母校同窓會並びに學問の進展に資する基金であると考へられる。しからば此の際之等を統合して大針塚奬學資金を結成して上述の如き有効且つ積極的運用法を講ずる事がより望ましいことではあるまいか。而して奬學資金授與に關しては、單に直接蠶絲業に關する研究のみならず之を擴大して理化學、生物學、經濟等斯業改良上必要なる研究に對しても之を與へる事が必要である。

三、母校人事課新設方促進に關する件

我母校に人事課を設置するの件は極めて緊要なる事と認める。然し乍ら一課が增設されたからと云つて自然人事が開けて行くと云ふものではないことは明かである。即ち當事者に其の人を得ぬ時は充分効果は上げ得られぬ事となるであらう。故に機關の設置、其の完備と共に其の當事者には特に學德高く且つ具眼の士を選任される事を切望するものである。尤も他校に於ける人事は人材の養成及び其配置に關しては著しき積極性が認められる。故に母校に於ても更に一段の努力を望んで止まぬ。また人事課の運用に關しては單に目前の就職問題のみならず同窓會の還き將來を慮り、人材の養成にもより積極的に深甚なる考慮を拂はれて卒業生の發展、母校の隆盛に努力せられん事を切に望む次第である。

以上は第十二回千曲會代議員會議事抄錄を拜見して、我々の論議の一部を極く簡潔に逐條列擧したものである。同窓諸兄の御批正を得れば幸である。

日本一の農産加工場設置

鹿兒島縣立宮之城農蠶學校長　櫻井吉利

同校では二月二十一日の佳日をトし、新設女學部校舍の起工式に併せ、新設農産加工場の落成式を擧行したのである。當日の鹿兒島朝日新聞は其の盛況を始め同地方に絶大の尊敬と信頼をおかれる同校の賞讃と新設農産加工場の紹介等で一頁を費してゐる。本記事は同校々長櫻井吉利氏（蠶六）が母校倉澤教授に寄せられた前記新聞より同教授の御厚志に依り採擇掲載したものである事を附言して櫻井氏の御了諒を得ると共に各位の御參考に供する次第である。（編輯室）

教育方針

先年縣立蠶業試驗場の東市來町移轉に關聯し之れが留置運動に全力を盡した宮之城町以下祁答院地方の各町村では之が代償として同試驗場跡の建物を本校の農産品加工場に移轉修築して生徒の實習に充つることゝなり、之れに要する諸經費に二萬五百圓の金額が交付されたのであつた。斯くて本校に於ては直ちは本校に隣接せる二反歩の敷地を二千圓にて購入し、更に八千四百圓の移轉費を投じ鹿兒島市栗牧伊太郎氏の請負により

一、釀造漬物工場（長さ十八間　八十一坪）

二、罐詰穀類繊維加工場（長さ十一、五間五十一、八坪）

三、紅綠機械製茶工場（長さ十三間　六十五坪）

四、搾油其他加工場（長さ八間　二十四坪）

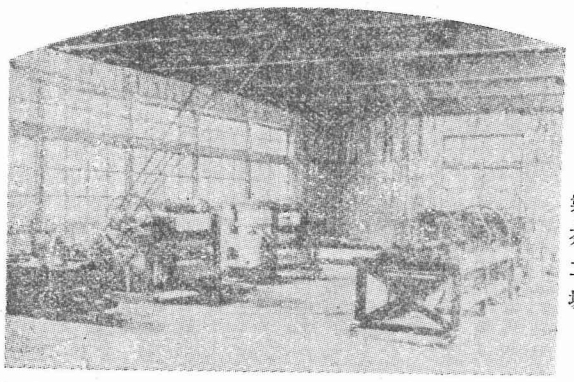
の四棟計二百三十餘坪の建物を修築し更に一萬餘圓を投じ新式加工機械の各種を購入、これが据え付を終つたのであるが縣より無償讓受けの建物を合算すれば之れに要した經費は優に三萬圓を突破すべく規模の廣大と内容の充實せる點に於て全國中の農學校は愚か、高等專門學校中にもその類例少く恐らく全國各中等學校を通じその最も雄なるものと信ずるのである。

然して、之れが設備の内容は當地方産業の主なるもの、或は將來力を致すべき物に主力を注ぎ、又農家經營の主眼とする自給自足をモットーとして完璧を期したのであります。例へば罐詰加工では當地の筍の消化、又霧深く本地方獨特の香氣に富める綠茶、紅茶の製造、將來祁答院地方の特産となすべき柿の加工等には費用を吝ます、その設備に萬全を期したのであります。一方農家は自給經濟を本位とする立前から澤庵、味噌、醬油、油油糟、紛、饂飩、素麺、パン、叺、繩、莚等各種の委託製造も大規模に計畫し、農村民の副利の增進を期したのであります。

是によつて生徒は從來の玩具教育やシヨーウキンド式教育より實物大教育が出來、實際的環境の中で思ふ存分練磨が出來願の教育物識り教育より腕の教育が出來て、生産擴充、銃後を護る農土に相應しい實際に役立つ人間が出來ると信じて喜びに堪えない次第であります。現今の實業教育は教育の中に於て産業をする樣な考へで居る者が多い爲めにその氣魄に乏しく、練成された人物を作り得なかつた憾がありましたが、本校の如く産業の中で教育する式のやり方なれば眞實に役立ち然も仕事の間に人物、品性、識見の養成が出來て理想的と思ふのであります所謂昔の徒弟教育の長を捉らへて現代實業教育の短を補はねばならぬと思ふのであります。

此の意味合からしましても今回かかる大工場を設立して戴いた事に衷心感謝するのであります。尙學校は從來象牙の塔として社會とは沒交際になり勝ちでありました本校は茲に鑑みる所在り卒業生にして自營しつゝある數十名の者を中心に農産加工組合を設立して之れが活動の根源となしそれに在校生の委託を加へ更に餘力を以て地方青年學校、或は地方當業者の利用厚生を希つて止まぬ次第であります。

支那事變も武力戰は略結末を告げたかの感がありますが、これから日滿支一體となり東亞新秩序の長期建設に當らねばならぬ今日、國家總力の根抵たる農村農家の生産擴充こそ一大責務となつてゐるのであります。此の重大な機に當りまして日本一の大加工場が竣工しました事は私共の絶大なる喜びであると共にその責務の大なるを感得し益々銃後奉公の赤誠を捧げねばならぬと決心する次第であります。



——製茶工場——

加工場の設備と概要

一、機械製茶工場

蒸シ機一臺、粗揉機二臺、揉捻機一臺

再乾機一臺、精揉機一臺、乾燥機一臺

切斷機一臺

二、油脂工場

製油用玉締水壓機一臺、金輪立機底皿

玉石一組、手押水壓ポンプ一臺、壓力計一個、菜種壓扁機一臺、蒸籠一個

三、穀類繊維加工場

特許小型苧麻剝皮機一臺、清藤式甘藷細切機一臺、清水式精米機一臺、岩田式脫穗機一臺、田邊式小型製紛機一臺

原式大豆粕粉碎機一臺、三菱製三相誘導電動機五馬力一臺、製パン用煉瓦竈一基、製パン用型箱二〇個、莚織機八臺、製繩機三臺

四、罐詰工場

コルニツシユ式汽罐設置費共一基、重松式竪型汽罐一基、竪型加壓殺菌釜一臺、砲金製二重釜二臺、アルミ製二重釜一臺、瓶詰殺菌機一臺、右用鐵骨製籠四臺、脫氣箱一臺、蒸煮殺菌槽一基

自働罐詰卷締機一基、手動罐詰卷締機一臺、壓力檢罐器一個、蓋付機一臺、手動王冠打栓機一臺、乳脂遠心分離機一臺、脫水機一臺、乳脂攪拌機一臺、蒸氣パイプ布設

五、釀造工場

今野式麥割機一臺、味噌漉機一臺、口付煎鍋一個、煉瓦竈一基、醬油仕込コンクリート槽一列、醬油壓搾槽一臺、搾り袋五〇枚、醬油甕五本、麹蓋二〇〇枚

六、漬物工場

漬込コンクリート槽一列、四斗槽三〇本、大根三段式千切機二〇個

七、工作工場

木工臺一〇臺、木竹工用器具一式

即ち加工場の第一棟は釀造及び加工場である。漬物工場には二萬斤の大根を一遍に漬け込むコンクリートの大タンク五個が並び、各家庭に於て收穫せる大根など喜んで之を買ひ入れ、希望者には同校製の美味しい澤庵漬など至極廉價に供給して居るが、更に季節に入れば梅干やらつきようなど多量に漬込み軍需品として賣り出さうとする。計畫が考へられて居る。次には釀造工場であるが、醬油、味噌なども一般人に即賣して居るが廉價で且つ美味なのが大好評である。

第二棟は罐詰、穀類並に繊維加工場で新式ボイラーの外に罐詰製造機、殺菌機その他高價の機械多數が設備され、殊に此の地方名産「筍罐詰」の大量生産に乘り出すやう獨特の設備が施され更に苧麻の剝皮や精米、製粉等は云ふに及ばず、「うどん」なども洵に見事なものが作り出されるのである。

第三棟は紅綠機械製茶工場である。朝夕なに霧の深い此の地方の茶の葉は其の質に於て最も優良であり、從つて茶業の將來に就ては特に多大の期待を待たれて居るのである。最後は搾油其の他の加工場であるが、農家の手により簡單に賣り捌かれてゐた莚臺なども此處に持つて來れば油ともなり、又油糟も我手に收められるのである。而して以上は僅にその一面を記したにすぎないのであるが、何れも當地方の農業開發に密接な關係を持つたものばかりである。

品種名雜考

蠶二〇生

蠶業界に於ける蠶品種名は他の業界に於ける名稱と同樣に、同名異種、異名同種少なからず、其の命名法も種々雜多にて混亂を極めしが、國の蠶業試驗場に於て之等在來の品種、及び新育成品種に稍々系統的なる名稱を附したる結果、統一簡單化する情勢を見たれども、更に近年に到りて原蠶種國家管理の實施上、其の名稱は全く混亂繁雜を極め、遂に「蠶作不良の原因は蠶品種の混亂に由來す―」なる迷論？すら出ずる現狀を呈せり。筆者も亦之等蠶品種名の實際取扱上に少からざる不便と混亂を感じ、在來の名稱に對して少許の考察をなし更に私見を述べて大方諸賢の御叱正を願ふ次第なり。

從來の品種名を、其の文字の表す意味より勝手な分類を行つて見ると

A、原產地及地名採用の品種名
　相模、種島、浙江、アスコリ、等
B、性狀表現の品種名
　白雪、大巢、赤熟、龍角、歐白、等
C、理想表現の品種名
　世界一、平和、安泰、榮光、等
D、前三者の組合せ名、年號、社名、單なる符號、其他の名稱
　信濃歐白、昭和、郡是白、S號、等
E、國蠶系品種の名稱

考察の都合上特にBと區別す。

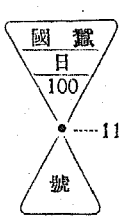
以上の如くであるが、然らば蠶品種名の具備すべき條件は如何、更に其に依つて上記品種名の考察をなし私見を述べん

一、簡單明瞭なる事
二、性狀系統等も表現し得る事
三、蠶以外の名稱事物と混同せぬ事
四、名稱の數多き事
五、音感良き事
六、其他

以上の條件によつて、在來の品種名を見ると、AよりBまでの名稱は何れも簡單にして明瞭なれども、性狀系統等は知る由もない一點的名稱であり、蠶以外の名稱と混同のおそれもあり、完全なる名稱とは稱し難い。乍然、蠶業の性質上品種名はその品種を簡單的確ならしめ而も品種を印象的ならしむる事が非常に重大なる條件であつて、予は名稱の重要性の八割を其に置き度い。從つて本名稱は諸多の缺點を考慮するならば可成良き名稱とならんと考ふ。

次に國蠶系品種の名稱（勿論國家管理による名稱も含む）は左圖に示す如く

國蠶日一一一號



盃狀の名稱であつて「國蠶」の二字によりあるグループを限定し、「日」の文字により日本種を、「一一〇〇」により化性を、「一一」によつてその品種を決定し、「號」によりて完了を示す本名稱は系統化性を表現し、蠶以外の名稱と確然と區分し、而も數學採用により方法によつては殆んど無限に命名し得る等の特點を有す。

然れども、蠶業に於て最も重大なりと思考する簡單なるべき條件が、二次的重要性の系統化性表現に犧牲化せられたる傾あり、數學の命名はそれだけ印象を減殺し、音感惡く、加ふるに日支歐各種に同一數字を用ひ、亦盃狀名稱の特色として品種決定の一點呼稱に至るまでに多くの共通音をきく等數多の缺點を有す。要之、國蠶名は分類學的命名法にして、名稱不明の動植物を特徴により順次局限して最後に個体を決定するには便なれども蠶業の如く品種名既知の個体を取扱ふ名稱としては餘り感心せず。

以上前二者の長所を採り、予は放射狀名稱を採用せんとす。

即ち簡明、印象的なる從來の名稱を用ひ、性狀系統表現の爲に、日本種は必ず日本の地名山名其他を用ひ、同樣に支那種は支那名を、歐洲種は歐米名を用ふ。更に化性表現には日本種は東日本の名稱を一化性とし、西日本を二化性とす。支那種は揚子江の北を一化性、南を二化性とす。

繭色の表現には、黃繭のみ名稱の後に「黃」を附する事とす。即ち以下例を示す。

系統
化性 ↑ ○ ↑ 繭色
―名稱

富士	日本種	一化性	白繭
阿蘇	仝	二化性	仝
水戸黃	仝	一化性	黃繭
佐賀黃	仝	二化性	仝
奉天	支那種	一化性	白繭
杭州	仝	二化性	仝
北京黃	仝	一化性	黃繭
南京黃	仝	二化性	仝
パリ	歐州種	一化性	白繭
シカゴ黃	仝	仝	黃繭

以上の名稱により系統性狀を附加し得れども、本名稱の短所は、蠶以外の名稱と混同する事、在來の名稱にこの規則に適合せぬものある事、名稱が有限である事、奇異の音感ある事、等あれども必ずしも決定的な缺點とは思はれない。

殊に注意すべきは、地名を利用する場合、一例せば「長野」と云ふ名稱が『長野は俳舒が不良であつた』と稱する如き混亂である。從つて蠶業地、國名等は黃繭名に利用する方が安全ならん。

乍然今日蠶品種名混亂の最大原因は、新品種として指定前後に二名稱を有する事である。之等の對策として予は現狀に於ては止むなく原名を用ふるか、或は事情の許すもの（例へば「郡是青」を「大江山」と改名）のみ變名をなし、將來に對しては、試驗場、會社等に於て育成中の品種に本旨による名稱を附する事とし該名稱は必要あらば豫め國の試驗場或は農林省等に登錄して混亂を防ぐ事も可能ならん。若し其の煩に堪えぬ場合には、育成有望品種の大量試驗時代より本主旨の名稱を附する事とする。以上の方法によりて蠶品種の二大條件簡明にして性狀表現を滿足し得るものと愚考す。

名稱混亂時代に現れた一つの珍奇なる案として諸兄の御笑正と、更に良き具体的名稱の發表を期待しつゝ擱筆する次第なり。

昭和十三年三月一日

養蠶と煙草

小林辰夫

昭和五年の世界的經濟恐慌の餘波を受け、絲價の暴落を來すや、之が對策としては國を擧げて生產の縮少を唯一無二の政策と頼み、增產を恐るゝ事蛇蝎の如く、絲價が向上すれば直ちに繭產額の增大せん事を憂ひ、桑園の整理、製絲釜數の減少等、唯々消極的にのみ進みつゝ有りたる時、支那事變の勃發を見、繅維飢饉の狀態を現出するや、一朝にして絹絲新規用途の研究大に進み、遲れ馳せ乍ら蠶絲業の重要性が再認識され、昨今の增產奬勵とはなつたのである。

然るに養蠶とは恰も犬猿の間柄で有る處の煙草も、丁度同じ樣な過程を辿り、一時減少を見たるも最近輸出の增加に伴ひ專賣局の葉煙草生產擴充計畫の樹立を見、之が關係地方に於ては養蠶業との間に相剋摩擦を生じ、紛議を釀さんとするの狀勢に有り、斯くては現下非常時局の國內產業の融合と調和に依る生產增進の國策に副はざるのみならず、却つてお互に減產を招來するの恐れなしとせず、依つてほんの參考迄では有るが自分は養蠶と煙草を二大產業とする地に八年も勤務し居る者故、左に養蠶經營地帶に於ける葉煙草耕作の實情即ち桑園と煙草畑との區劃整理に於ける苦心の跡を報導し、今後煙草耕作計畫樹立地方の各位に對し幾分なりとも碑益する處有りとせば誠に幸甚とする次第で有る。

○桑園と煙草畑との區劃整理に就て

桑園と煙草畑との區劃整理に關しては、郡內各町村より夫々關係者（養蠶實行組合長、煙草耕作總代人、町村會議員、區長又は總代、其他有力者）の參集を願ひ一方蠶絲課長、蠶業取締所長、養蠶業組合長並に地方專賣局長、町村長、煙草耕作聯合會長等々の御會同を煩し左の實行案を協定し區劃整理を斷行するに決せり

桑園と煙草畑との區劃整理實行案

一、區劃整理實行委員（主として總代、區長又は團體長）を上げて現在に於ける桑園と煙草畑との見取圖を各大字毎に調査せしめ、又將來に於ける區劃整理圖を調製し、役場に於て取纏めの上複製し、地方專賣局、蠶業取締支所及び養蠶業組合、煙草耕作組合等に提出せしむ

二、各町村煙草耕作組合長又は耕作總代人は區劃整理實行委員と共に左記事項の實行に努むる事

イ、桑園の集團しある方部に煙草畑の點在し居る處は、替地其他の方法により煙草畑の集團しある方部に移さしむる樣督勵を加へる事

ロ、煙草畑の點在により他に被害を及ぼし乍ら替地せざる場合は、爰に區劃整理圖を提出しおきたる官廳に其の旨を報告し、煙草耕作反別認可申請の場合考慮して戴く事

ハ、煙草畑の集團し居る方部に桑園の點在せる場合は之を堀起し煙草畑となさしむる事、若し煙草畑となし得ざる場合と雖も堀起し他の作物を栽培せしめ再び桑園となす事を避けしむる事、尙かゝる場合は桑園の整理改植用政府補助金は優先的に認め且つ替地改植即ち其の桑園を整理し他に新植したるものをも改植と認め補助金を交付する事

ニ、煙草耕作反別の擴張により新に耕作反別の增步又は耕作人員の增加に對する煙草作付反別決定に付ては充分將來を考慮し適地を協定せしむる事

終りに養蠶經營は一般に知られてゐる事故、此の方面は省略し、煙草畑一反步當り經營の大體と煙草耕作が何故此の地方にのみ盛であるかを記さんとす。

1、葉煙草反當經營費

品種　松川葉
人夫　一〇〇人―一二〇人
聯合組合費（人員割―一、四〇錢／反別割―一、九五錢）
組合費及雜費　五圓―一〇圓
金費（菜種　柏　三〇〆／配合肥料　二五〆）（約二三圓位）
　內譯（苗床―反當四坪　五圓程／本畑―　一八圓位）
自給肥料（堆肥　四〇〇〆／木灰　三五〆）
（堆肥は貫當四錢見當　木灰は一〇錢位）
收穫量　一四〇瓩―一七〇瓩
金高　最高　極端　一八〇圓　一五〇圓
　　最低　普通　五〇圓　七〇圓
　　平均　九〇圓　一一〇圓

2、此の地方が葉煙草耕作の盛なる理由

イ、煙草耕作の裏作として大麥を收穫し得る事

ロ、三春駒と云はれる程の馬產地にして大麥の利用大き事

ハ、老若男女の從事し得る事

ニ、冬期間の勞力を充分に活用し得る事

ホ、專賣事業故値段の高低少く割合に安心して耕作し得る事

ヘ、先祖傳來の事業にして自然技術が進步してゐる事

ト、他に好適したる事業なき事、即ち馬、大麥、煙草の三者が鼎の如くうまく組合つてゐる事

（昭和一四年二月
於福島縣蠶業取締所三春支所）

母校ニュース

柔道寒稽古納會　柔道部では一月十八日より二週間厳寒を衝いて行つた寒稽古の納會を其の最後の三十一日に於て、主として部員、之に上田中學、小縣蠶業の部員が混つて會に行はれた。

小澤利雄氏退職　昨年四月十二日より母校紡織科人絹部に副手どして勤務せられし小澤利雄氏（紡十四）は大阪府經濟部商工第二課に榮轉される事となり二月三日退職赴任された。

校内スキー講習會　恒例のスキー講習會は二月二日――四日に亘つて體位向上團體精神振興の緊要なる折柄、特に緊張裡に近郊菅平スキー場に於て行はれた。本講習會は學生課、山岳部が主となつて斡旋され生徒を中心として、職員、傭人等も參加し無事有意義に終了した。日程講習科目は次の如くである。

第一班（各科三年、絲二、紡二年）
出發　二日午前六時三分川原柳驛發
集合　午前八時半菅平閣横廣場
講習　午前九時より正午
休憩　正午より午後一時
練習　午後一時より三時
校友會スキー大會、自三時、於ダボス
宿泊　菅平閣及田中（農家）にて

第二日目（二月三日）
練習　午前八時半より十時半
歸路　菅平出發八時半、菅平口着十一時二十分、第二班にスキーを渡し菅平口發、川原柳驛着午後〇時三六分解散、翌四日は授業

第二班（蠶二年、各科一年、養成科）
出發　三日午前九時三九分川原柳驛發
菅平口着　午前十一時二〇分、第一班よりスキーを受領
集合　午後一時半菅平閣横廣場
練習　午後二時ダボスに於て
宿泊　菅平閣、田中、小林にて

第二日目（二月四日）
練習　午前八時半、太郎、宮前、幼稚園各スロープにてABC組別に
休憩　正午より一時
練習　午後一時より二時
校友會スキー競技大會（第二回）
歸路　菅平出發午後三時、スキーにて滑降、菅平口着四時、川原柳驛着五時十二分、解散

各組講習科目
A組　クリスチヤニア、テンポスキング、スラローム、ジヤンプ
B組　シュテムボーゲン、クリスチヤニア、LST
C組　平地滑走、登行法、直、斜滑降、雨、半制動滑降、兩制動廻轉

各組指導者
A組　今井氏（上田倶）、目崎君（蠶三）、早野君（紡一）
B組　阿形副手、渡邊君（紡三）、小川君（蠶二）
C組　宮坂講師、武井副手、小林君（蠶三）、小山君（蠶三）、北村君（蠶二）、鈴木君（蠶二）、佐藤君（蠶一）、岡田君（紡一）

女子組　山田講師、町田副手
指導者格の山口、志賀、小林尚の各先生は御都合惡く殘念ながら缺席された。

校内スキー大會　別記二月二日より四日に亘り前後班に別れて行はれた校内スキー講習會の日、校友會山岳部が主催となつて前後班共講習、練習終了後校内スキー競技大會を催した。其の成績は左の如くである。（參考は山岳部員）

第一班（前班）二月二日
滑降レース
A組　一等金子（紡二）、二等小川（絲三）
三等小山（蠶三）
B組　一等高野（蠶三）、二等小山（先生）
三等青山（蠶三）
C組　一等西谷（紡三）、二等園田（紡三）
三等北原（蠶三）
廻轉レース
A組　一等金子（紡二）二八秒八（參考　目崎二二秒四）、二等小山（蠶三）、三等小川（絲三）
B組　一等各泉（絲三）二十秒三（參考　目崎一七秒、宮坂先生一八秒三）、二等古平（紡三）、三等中錦（絲三）
C組　一等小山先生二四秒五、二等谷澤（蠶三）、三等箕輪（絲三）

新復合
一等金子（紡二）、二等小山（蠶三）
三等小川（絲三）

第二班（後班）二月四日
滑降レース
A組　一等井上（蠶一）、二等濱村（蠶二）
三等田中光（蠶二）
B組　一等中島（紡一）、二等二宮（蠶一）
三等竹村（蠶一）
C組　一等森山（絲一）、二等水口（蠶一）
三等内田（紡一）
廻轉レース（A組のみ行ふ）
A組　一等田中（蠶二）、二等臼田（紡一）
三等井上（蠶一）
長距離レース約（二キロ）
一等鈴木（蠶二）十五分十秒、二等井上（蠶一）、三等茅野（絲一）

山岳部第五回北信濃スキー大會に優勝　二月五日松代郊外の地藏峠スキー場に於て第五回の北信濃スキー大會が催され、山岳部は參加クラブの菅平スキークラブ松影スキークラブ外十二クラブに伍して奮闘、當日雪質稍不良であつたが充分實力を發揮し輝く優勝盃を獲得した。競技成績を示せば次の如し。

八粁レース
一等　清水（菅平）　四分五五秒F
二等　小島（菅平）　四四分十二秒F
三等　岡田（蠶專）　四七分四五秒F

一粁不倒滑降
一等　宮脇（松商倶）　三八秒F
二等　目崎（蠶專）　三八秒五
三等　鍄澤（菅平）　三九秒九

廻轉リレーレース
一等　北島（菅平）　六五秒五
二等　目崎（蠶專）　六七秒
三等　大島（松代倶）　七五秒二

八粁リレーレース
一等　上田蠶專チーム　五三分五秒
二等　松代スキークラブ　五五分四三秒
三等　上田林友チーム　五五分五七秒

尚母校チームメンバーは、早野（紡一）、北村（蠶二）、岡田（紡一）、目崎（蠶三）の諸君であつた。

無試驗入學第一次詮衡合格者決定　本年度無試驗入學志願者は養蠶科十名、紡織科六名あつたが二月十日の教授會に於て詮衡の結果、養蠶科十名のみ第一次詮衡合格者と決定された。

紀元節拜賀式　二月十一日午前九時半より講堂に全校職員生徒列席、事變下の紀元節拜賀式を嚴粛に行つた。

教婦養成科送別會　二月十一日紀元節の佳日教婦養成科一年生及豫科生は姉妹の樣に親しんでゐた二年生十三名を送る會を開いた。恒例により次の樣な盛り澤山の餘興などを演じ六時過迄時の移るも知らず只管名殘の團樂に浸つた。寫眞は大岡さばき、慰問袋（蠶二）

校友會合唱、愛國行進曲（遊戯）、水兵の母（劇）、荒城の月（踊）、天然の美（踊）、ベンニュース（劇）、野崎小唄（踊）、雪の花（お琴）、薩刀（劇）、進軍歌（遊戯）、彌次喜多（踊）、蠅（劇）、大岡さばき（劇）、螢（お琴）、眞實は人を動かす（劇）、二人は若い（踊）、荒城の月（遊戯）、愛國千人針（獨唱）、慰問袋（劇）、眞田小唄（踊）、幼き頃の思出（ハーモニカ）、月の沙漠（踊）、弓八弦（お琴）、愛馬進軍歌（合唱）、確な保證（劇）、花賣娘（劇）、憧の荒鷲（合唱）、露營の歌（踊）、夕刊賣の娘（劇）、校歌合唱、外數種

弓道部の寒稽古納會　嚴寒の候一月に於て二週間の寒稽古を行つた弓道部では二月十一日其の納會を催して成果を見た部長内田先生並に水上師範が出席觀戰された。其の成績は左の如くである。

一、禮射　太田　光
一、金的
一、十射藏射（部員をA、B組として）

A組
一等　七中　武井和夫（紡一）
二等　五中　太田光（蠶三）
三等　四中　伊藤嘉三郎（蠶二）
四等　四中　佐藤崇（紡一）
五等　四中　金子肇（絲二）

B組
一等　四中　渡邊健二（絲一）
二等　四中　佐藤稔（絲一）
三等　四中　小林剛（絲二）
四等　三中　笹川嘉隆（絲二）
五等　三中　門傳東吉郎（蠶一）

尚納會に先だつて水上師範査定に依る昇段試驗あり、結果に次の如し。

三段　太田光、武井和夫
準二段　今亘省吾
初段　金子肇、中川力男、小林剛、笹川嘉隆、松野正、佐藤崇、小島喜代志、菅野勇秩、森山晴美
一級　佐藤稔、渡邊健二、門傳東吉郎

送別演奏會　音樂部では二月十一日午後六時半より母校講堂に於て卒業生の送別演奏會を催した。曲目及び主演者は次の如くで、時局柄「愛馬進軍歌」「愛國行進曲」等には聽衆も共に和唱しなごやかな而かも壯重な氣分が堂内に漲つた。

第一部
一、ハーモニカ合奏（指揮鹽入君）
校歌、校友會々歌
二、ハーモニカ合奏（全右）
小さな支那人（スミス作曲）
三、尺八獨奏（濱田君）
木枯
四、マンドリン合奏（マンドリンバンド）
カツコーワルツ（ドナルソン作曲）、スペインの娘（チアラ作曲）
五、ギター獨奏（鹽入君）
夜曲（ヘンゼ作曲）、セバストポール（ウォーラル作曲）、軒訪ろゝ秋雨（武井守成氏作品十一番）

第二部
一、ハーモニカ合奏
ボルガマーチ（ドスタル作曲）、國民歌謠接續曲（鹽入君編）
二、獨唱（關谷君）オルガン伴奏（箱山君）
大陸行進曲（陸軍々樂隊作曲）、月下の吟咏（細川潤一氏作曲）、愛馬進軍歌（陸軍省選定）
三、ギター二重奏（野島、三宅雨君）
リンゴの木の下で（ハワイ民謠）、アイルランドの娘（大國舒光編）
四、獨唱（長澤君）、ギター伴奏（鹽入君）
泪のタンゴ（服部良一作曲）、麥と兵隊（大村能章作曲）
五、尺八（新曲）邦樂部員
金剛石
番外　ハーモニカ合奏
悲しき子守唄（竹岡信幸作曲）、旅の夜風（萬城目正作鹽入編曲）

第三部
一、マンドリン二重奏（鹽入、中錦君）
新春雨
二、獨唱（楠八重君）
支那の夜、月のセレナーデ
三、ハーモニカ合奏
クシコスの郵便（ネツチ作曲）、父よあなたは强かつた（鹽入編）
四、マンドリン合奏（指揮箱山君）
郷愁（大國舒光編）、宵待草（鹽入編）
五、合唱（蠶專合唱團、伴奏　マンドリンバンド）
校友會々歌（加子三郎作詞）、愛國行進曲（内閣情報部選定）　以上

尚部員の卒業生は鹽入、中錦、宮田、箱山、長澤、箕輪、田中、土屋、柴田（以上洋樂部）、濱田、冬泉、橋本、谷澤、堀江、上原（以上邦樂部）の諸君である。

製絲教婦養成科入學案内

一、募集人員　約十五名
一、出願資格　一高等女學校卒業者又は之と同等の學力を有する者　二高等小學校卒業後一ケ年以上製絲業に從事せる者
一、出願期日　一月十一日より三月廿二日迄
一、試驗科目　數學（算術、代數、平面幾何）、國語（作文を含む）
一、試驗期日　三月廿六日（午前學科、午後體格檢査、口頭試問）
一、試驗場所　上田（本校）
一、入學志願者心得　入用者は三錢切手封入本校教務課宛申込まれたし

上田蠶絲專門學校

製絲業手募集要項

一、募集人員　若干名
一、締切期日　三月二十三日
一、手續　製絲業手採用願、履歴書、戸籍抄本ヲバ當校製絲科ニ差出スベシ
一、出願資格　高等小學校卒業若クハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者、但將來本校製絲教婦養成科ニ入學セントスル目的ヲ有スル者ニ限ル
一、給料　採用セラレタル者製絲業手勤務中ハ日給金參拾錢以内ヲ支給ス
一、採用試驗　三月二十六日午前八時ヨリ採用試驗ヲ行フ
一、受驗票　出願者ニハ受驗票ヲ交附ス、受驗票ハ試驗當日之ヲ持參スベシ、猶受驗票ノ交附ハ本人ノ願書到着ト同時ニ引換ヘニ行フ
一、試驗場　本校
一、試驗課目及時間割

課目＼時間割	自午前八時至十時	自十時十分至〇時十分	自午後一時
一、學課試驗	數學	國語	
二、體格檢査	―	―	
三、口頭試問			兩課併行ス

一、試驗當日持參スベキ物　受驗票、各學年通告簿、辨當、上草履筆記要品（ペン、萬年筆又ハ鉛筆、小刀消ゴム等）
一、試驗程度　高等小學校卒業程度
一、合格不合格　共ニ本人ニ通知ス
一、製絲業手規定入用ノ者ハ三錢切手封入ノ上製絲科に申込ム可シ

上田蠶絲專門學校製絲科

出征會員慰問資金募集

出征會員に對する慰問資金を募集致します。慰問事業實行上に關する經費所要額に就ては本紙九月號へ登載の通りでありまして今後尚一層出征勇士に對する慰問に關しては努力致し度い覺悟であります何卒本會設立の趣旨御諒承の上奮つて御獻金賜はらんことを御願ひ致します。

上田蠶絲專門學校同窓會銃後會

應召者並に召集解除者に就て御願ひ

一、應召者に就て
應召者に就て登載された場合は其の旨本會迄御一報願ひます。本紙會員動靜欄へ登載以外に應召會員御承知の方は左記事項本會迄御通報下さい
1、應召者氏名
2、家族の現住所及氏名（留守中の通信先）
二、所屬部隊變更に就て御願ひ
軍務御多忙中甚だ御迷惑の御願で恐入りますが所屬部隊變更なされました場合は其の旨御一報願ひます。
三、召集解除者に就て
召集解除となつて歸鄉せられし場合は直に御一報願ひます。

和田先生嚴父御逝去　母校和田仙太郎先生嚴父又四郎氏（八十六歳）は二月十四日心臟麻痺にて御鄉里會津若松市材木町の御自邸にて急逝された。謹しんで哀悼の意を表する次第である。

劍道昇段試驗合格　大日本武德會長野支部では二月十一日午後一時より上田市公園内の上小支部武德殿に於て本年度春季階級試驗を擧行したが母校から學生左記三名が出場次の如く昇段した。

二段　鈴木彦佐（蠶三）
　　小山富治（蠶二）
初段　宮澤久雄（蠶二）

劍道寒稽古納會　劍道部では一月十八日より二週間嚴寒を衝いて行つた寒稽古の納會を二月十三日に行ひ終了後皆勤賞の授與を行つた。試合成績左の如し。

一般の部

○○○齋藤重田
○○○田藤江
○○○宮澤瀬山田
○○○村井土内山
○○○齊目青屋田
○○○訓目淵上立
○○○畠崎足柳水
○○○水口清田
○○○北村梶崎
○○○足立目築
○○○臼田郡藤
○○○瀧川佐泉
○○○小幡小川

以上の成績より左の如く等級を決めた。（同點者は抽籤す）

一等　井上次郎（絲一）
二等　足立光男（蠶二）
三等　重田正喜（蠶三）

部員の部

○○鈴木
○○○青山高宮
○○○白井二田橋川
○○○○中宮○
○○有川安藤岡○
○○○小寒河松田
○古平工工宮藤原林江藤○

紡織科新卒業生送別會　二月十六日午後四時より千曲會館に於て紡織科新卒業生送別會を開催した。紡織科職員學生全部出席し、二年生總代松山君の開辭にて開會、岡科長の送辭に對して新卒業生の總代飯田（武）君の謝辭あり茶果を喫しつゝ互に指名の餘興を行ひ、五時半頃二年副總代田路君の閉會の辭、岡科長發聲にて萬歳三唱散會した。

時局講演會　二月十八日辯論部は東京朝日新聞社政治部記者山崎武彦氏を招き「北支長期建設の實情」と題する講演會を午後一時より二時間に亘つて講堂に於て催し、職員生徒全部傾聽し時局下の認識と感激を新にした。

蠶絲學雜誌第十一卷第二號内容紹介

蠶絲學雜誌第十一卷第二號は既に發行し、豫約者に配本致しました。外に必要の方はどし〳〵御注文下さい。尚引續き第十一卷第三號も編輯開始いたしたく思つて居ります。玉稿を一日も早く御惠投下さる樣御願ひ申上ます。

昭和十四年三月　蠶絲學雜誌編輯係

第十一卷第二號目次（昭和十三年十二月）

報文
一、家蠶卵のカタラーゼの行動……中曾根長男……六九
二、顯微鏡による絹絲の形態的研究……〔荻原清治〕……八〇
　特に繭絲の形狀に就て……〔征矢克郎〕……八〇

調査
一、冬作綠肥と桑樹凍との關係について……中澤喜雄……一〇四
二、桑園間作綠肥（夏作）の肥料價値比較
　附綠肥成長に伴ふ收穫量及可成分量の變化……〔三輪貞德〕〔佐々木一雄〕……一〇八

資料
一、北滿の蠶業に就いて……〔湯川秀夫〕〔出野正雄〕……一一六

文獻抄錄
一、蠶と煙草との關係論文抄錄……清水滋……一二五

養蠶科職員會スキー行　スキーは冬期運動の寵兒である。養蠶科職員會では二月十九日（日曜）還藤、佐藤（秀）、倉澤の先生方を始め一行九名で潑剌として、菅平に樂しき亦意義あるスキーの一日を過した。佐藤科長、蒲生、山口兩先生の外數名都合悪く行かれなかつた事は殘念であつた。

蠶試蠶締聯合軍と養蠶職員の卓球戰　二月十一日紀元節式後午後一時より養蠶科職員會は蠶試、蠶締の猛者連を迎えて卓球戰を試みた。手に汗握る接戰の結果點取は四對三、勝敗は蠶試山崎壽氏優勝にて養蠶職員軍の惜敗となつた。

故金子教授一週忌法要　昨年非常なる追慕の中に金子先生永眠されて早一年、市内新田の御遺族に於かれては二月二十四日故先生の一周忌法要を營まれ母校から特に關係深かかつた諸先生が列席、供養された。

談話會例會　二月二十四日（金）午後四時より千曲會館階上に於て談話會が開かれた。演題及講師は左の如くである。

「ナイロン」絲に就て　古平庄衛

學生應召　養蠶科選科二年生山内末男君は〇月〇〇日の夜〇〇〇を受け翌日講堂前庭に於ける壯行式に臨み午前十時十四分全校職員生徒の歡送を受けて應召、一先づ鄉里福岡に發つた。

柔道昇段者　高農蠶リーグ戰に二年連覇せる吾柔道部の選手左記の如く多數が二月十一日講道館の審査に合格、昇段の發表があつた。

四段　相澤清正（紡二）
三段　谷澤衞（蠶三）
　　濱田秀彌（絲三）
　　瀧澤喜三（紡一）
二段　近藤員矣（蠶三）
　　橋本正太郎（蠶三）
　　冬泉清（絲三）
　　小川泰弘（蠶二）
　　川瀨泰弘（絲二）
　　田路治男（紡二）
初段　大井卓雄（蠶一）

本年度入學志願者數　三月六日現在に於ける志願者數は養蠶科九五名、製絲科二二五名、紡織科二二〇名、計五五〇名にして昨年の本日に比して、蠶科四三名減、絲科七名減、紡科一名增、計三九名減の狀況である。

本會記事

本會日誌

二月八日　公園内富貴に於て在田同窓生の懇親會開催す
二月十五日　和田先生の尊父御長逝に付電報にて弔意を表す
二月十七日　故小島杉門氏の告別式群馬縣境町にて執行せらる倉澤理事參列す
二月二十一日　故鈴木寶鈴、故伊藤柳作兩氏の御遺族へ有志弔慰金贈呈せり
二月二十三日　故草野弘、故望月榮作兩氏の御遺族へ有志弔慰金贈呈せり
二月二十四日　農林省蠶絲試驗場松本支場長水野辰五郎殿卒去に付電報にて弔意を表す

千曲時報編輯者の交迭に就て

久しく本誌の編輯發行に就て、本會の爲に多大の御盡力を賜つた香山清和氏は今回都合により本誌編輯主任の重職を退任せらるゝことゝなつたに就て、來る四月號からの編輯は左記の通り新たに御委囑することになりました。玆に香山氏の長年の御骨折を感謝すると共に後任者に對しても倍舊の御眷顧と御後援とを御願する次第であります。

記

千曲時報編輯主任　小松忠一郎氏
全　編輯係　町田博氏
全　山田良人氏
全　久保藤一氏

昭和十四年三月　千曲會理事長

香山氏理事新任

今回本會を社團法人にする準備の必要上理事一名を增員する事となり、現參事香山清和氏を新たに理事に任命せり

昭和十四年二月　理事長　蒲生俊興

銃後資金寄附者（第十五回）

金貳圓也　小宮山太助
累計金八百五拾八圓也

會費領收（二月四日現在）

昭和十三年度會費金四圓也

岩根謙（甕二）　塚本優（甕三）　福島鋼治郎（絲三）　柳澤榮一（絲一七）　田ノ岡實（絲三）　岡豊次郎（紡五）　廣瀬廣（紡六）　關半田義雄（甕三）　西山伴野德人（絲二七）　福場小四郎（絲九）　今村與志郎（紡五）　順一（甕七）

未納會費納入者

金拾貳圓也　生井精一（絲一七）
金四圓也　宮本清松（甕一六）
勅使河原薫之助（甕一九）　山口悠紀男（絲三）
入會金完納者
山口悠紀男（絲三）　秋山實（絲三）
金拾圓也　鈴木茂（甕三）

針塚長太郎先生謝恩記念資金申込報告（第九回　二月四日現在）

金拾貳圓也　前田雅弘
金九圓也　橋本博
金六圓也　鈴木孫市　關順一
金參圓也　戸塚一　池田爲雄
右合計金參拾九圓也
累計金壹万〇四百拾八圓也

針塚長太郎先生謝恩記念資金受領報告（第一〇回　二月四日現在）

金貳拾壹圓也　磯野良知
金拾五圓也　岩田正　小松忠一郎
金九圓也　永井俊郎　雨宮金雄　橋本博　坂田正　湯原譲
金六圓也　隅倉美義　古平香山　庄衛　鈴木孫市
金參圓也　勅使河原薫之助　關順一　田村朝之助　松井憲二　戸塚一　秋山俊雄（一回分）　田ノ岡實　池田爲雄
金壹圓也　小澤正一（完納）
右合計壹百六拾參圓也
累計金八千八百四拾九圓也

叙任辭令

舊職員之部

叙從六位（昭和十三年十二月十五日）　正七位　早乙女新一郎

卒業生之部

叙正七位　從七位　丸山武夫

叙從七位（以上昭和十三年十一月十五日）　正六位勳六等　好士泰造

叙從五位　鶴田定平

叙正六位　從六位　吉村眞作

叙從六位（以上昭和十三年十二月十五日）　正七位　宮崎清治　同　上林多兵惠

訃報

竹村中和氏逝去

三月三日嗣子龍之助氏より竹村中和氏（甕一〇）病氣の處三月二日午後十時三十分樂石効なく飯田市の石井病院にて急逝された通知があつた。同氏は下伊那郡山本村の出身で飯田市外の喬木館養蠶部主任として活躍、最近頓に事業を擴張、業務も揚つて居た矢先、而かも三十九才にて非常に惜しまれてゐる。御遺族は令閨氏、御嗣子龍之助氏（十一才）の外四子がある。謹しんで哀悼の意を表する次第である。

弔慰金募集

故大尾晨義氏（甕二十）
故鳥倉惣次郎氏（紡六）
故小川春男氏（絲十七）
故小島杉門氏（甕八）
故竹村中和氏（甕十五）

以上五氏に對し弔慰金を募集致します。故大尾氏は三月末日故鳥倉氏故小川氏故小島氏は四月末日竹村氏は五月末日迄に取纏め御遺族へ贈呈致したいと思ひますから夫れに間に合ふ樣振替口座東京四三三四一番へ夫々故人に對する弔慰金の旨御記入の上御拂込下さい。

昭和十四年三月　千曲會

弔慰金報告

故服部令吉氏弔慰金

金參圓也　鎧塚好作　瀧澤幸　鈴木正一郎
金貳圓也　鈴木重孝　古平義雄
金壹圓也　吉池權五郎　多田作造
金壹圓五拾錢　大山融　藤田四郎
金壹圓也　水野義男　小林敏
坂口盲三　西澤正一
半田義雄　酒匂景雄
伊藤幸男　比田井政治
青木深
右合計金貳拾七圓五拾錢也（贈呈濟）

故井手末馬氏弔慰金

金參圓也　大谷内三衞
金貳圓也　市川清　井土兵一郎
金壹圓也　北島正生　小泉清明
新穗利信　丸山十吉
金壹圓也　宮前邦雄　山口定次郎　結城鎭男
右合計金貳拾四圓也

故兒玉鷹次氏弔慰金第二回

金五圓也　千曲會
金貳圓也　奥村好一　小宮山太助　森山二郎
右合計金拾貳圓也
累計金參拾圓也

故大尾晨義氏弔慰金第二回

金參圓也　千曲會
右累計金拾六圓也

故小島杉門氏弔慰金第一回

金貳圓也　奥村好一　湯澤重敬
金壹圓也　荻野土風
右合計金六圓也

和田先生よりの禮狀

亡父又四郎死去の際は早速御鄭重なる御弔電並に御香奠を賜り御厚志の段洵に難有奉深謝候乍略儀以書中御禮申上候　敬具

昭和十四年二月十八日　和田仙太郎

千曲會御中

農林省蠶絲試驗場松本支場長

故水野辰五郎氏御遺族よりの禮狀

亡父辰五郎死去の際は早速御鄭重なる御弔詞を賜り御厚情の程難有奉深謝候

昭和十四年二月二十四日　松本市四谷　水野辰次

千曲會御中

故望月榮作氏御遺族よりの禮狀

謹啓　故榮作儀に就ては一方ならぬ御高配賜はり洵に難有奉深謝候尚此の度は御鄭重なる御香奠を忝うし御芳志難有厚く御禮申上候、早速靈前に供へ申し候地下に眠れる靈も定めし感謝致し居ることゝ被存候、直に拜趨御禮申上ぐべき筈の處略儀ながら書中を以て厚く御禮申上度如斯御座候　敬具

昭和十四年二月二十三日　望月藤子

千曲會御中

故鈴木寶鈴氏御遺族よりの禮狀

拜啓　寒荷凌ぎ難き候益々御隆盛之段奉賀上候
陳者過日御丁寧に亡父靈前へ過分の御香料御心配下され難有拜受致し謹みて厚く御禮申上候
早速靈前へ供へ申候、故人も定めし御會初め御友情の厚きを地下にて感謝致し居る事と存じ候
竹内樣、万石樣へも御禮狀差上げ申候へ共尚又御ついでの折には宜敷御傳聲被下度候
先は不取敢以書中御禮迄如斯御座候　拜具

二月二十七日　鈴木達一

千曲會御一同樣

故伊藤柳作氏御遺族よりの禮狀

拜復　昨年愚父柳作死去致しました節は早速御弔問に預り今又多額の御香料を賜はり御禮の申し上げ樣も御座いません
故人も平素御親交を忝うしました皆樣方の御厚情に嘸かし地下で感涙にむせんで居る事と思ひます、いづれ拜眉の上御挨拶申し上げ樣とは存じますが取りあへず書面を持ちまして厚く御禮申し上げます
何卒貴會を通じて皆々樣方に宜敷御傳へ願ひます　敬具

二月二十七日　伊藤猛

千曲會御中

故小島杉門氏御遺族よりの禮狀

肅啓　餘寒猶去り難く候處愈々御清適の段奉賀候陳者先般亡夫杉門告別式の節は御懇ろなる御弔意に接し靈前へ御鄭重なる御香料を忝うし地下の靈もさだめし喜び居る事と御交情深く感佩致居候就ては時節柄御贈與賜り候御香料の一部を供養の印迄に軍人援護會群馬縣支部及境町出征軍人後援會に獻金致し以て粗品拜呈に代へ殘部は御芳情に甘へ遺子教育の資と永へに御芳情を偲び可申候間御諒恕被成下度候先は乍略儀紙上を以つて謹みて御禮旁々御挨拶申上候　敬具

昭和十四年三月二日　群馬縣佐波郡境町五〇四番地　妻小島敏

千曲會御中

故陸軍砲兵少尉 小島杉門君の英靈に語る

養蠶科第八回卒　宮崎清治

小島君、君とはもう此の世では會ふことも語ることもできないのか、南京野戰病院で悲しくも江南の露と消へ去つたのか、淋しく笑つて死んでくれたらふね、故郷に殘した愛兒や愛妻や澤山の友のことも忘れて　天皇陛下に獻げたる身の聖戰未だ終らない日、雄志空しく早世したことを歎きながら瞑目したのか、然し小島君、君の尊い死によつて、この戰が所期の目的到達に向つて順調に進んでゐるのだ、やがて東洋永遠の平和が到來した時こそ、その人柱となつて靜かに九段の靖國神社にいます幾多英靈と共に君の武勳は永久に輝くのだ。大和民族の男子に生れた者の本懷これに過たるものはないではないか。小島君偉風堂々と靖國神社に行つてくれ。

がしかし君も苦勞をしたことだらふ。去年七月炎天の候征途についてから武漢三鎭の攻略迄、いかなる惡路惡天候をも物ともせず、飢渴にも耐へ、斃れる軍馬をいたはりつゝ重い砲車を牽引して幾百里、武漢に入つて敵を奥地に追ひこんだと思つたとき病を得て南京に後送せられたのだらふ。無理はない。君が病にかかつたことも僕はよく判る。お互にもう四十の坂を越へた年だ、それに二十臺に僅か軍隊生活の經驗はあるが、それ以來ずつと役人生活ばかりしてゐるのだ、身体の抵抗力がお話にならぬ程微力なのだ、脂肪膨れに腹は出てゐるが、少しの長道を歩いても、もう冷汗がからだ中べつとりと出るんだもの、昔の若かりし頃の行軍等は思ひもよらぬことなのだ。その君があれだけやつて呉れたのは、全く肉体を超越した精神力によるのだ、御國に捧げた命、盡忠報國の至誠が心頭を滅却すれば火も自ら冷なりの境地に君を到らしめて、この年齡で若い兵隊と共に伍して大に勇戰奮闘して武勳をたてゝくれたのだ。尊い君の精神力に頭が下る。

小島君、南京の野戰病院では男らしく瞑目してくれただらふね。しかし人としての小島君、枕頭に手を握る愛兒もなく口を潤ほす愛妻もなく、たゞ戰友に手を握られて、洵に淋しくも……勇ましく息をひきとつたことであらふ。うはごとに君は『父よあなたは強かつた』あの歌詞を繰り返へし歌ふ敏子さん、洋君の聲を聞きはしなかつたか、又武漢入城の軍樂隊の音に『愛馬進軍歌』の歌詞が遥く流れて來て、君と苦樂を共にした愛馬の嘶が聞へはしなかつたか。又君は戰爭の寸暇に專門の智識を働かして支那の蠶絲業を研究したであらふ。支那の蠶絲業は我國の斯業にとり重大問題なのだから君がほつておく筈がない。その尊い見聞資料を群馬縣に歸つて堺支所の人々や縣廳の人や先輩友人に得意で話してやりたかつたであらふ。それもこれも皆もう君には出來ないのだ、どんなにか口惜しかつたらふ。

ただ洋君と敏子さんが『父よあらたは强かつた』あの歌を繰り返し繰り返し、君の寫眞の前にいつまでもいつまでも歌はれることだらふ。僕等はこのことを思ふときも斷腸の思がする。この文を通じて君の英靈と語るときも、黑いリボンに飾られた君の陸軍砲兵少尉の英姿が目に浮かぶ、その靈前に香供を奉る悲しくも雄々しき敏子さんの姿、廊下を洋君が軍歌を歌ひながら來るではないか。僕はもうこれ以上筆にすることが出來ぬたゞ涙するばかりだ。

君の軍服姿を初めて見たのは大正十一二年頃僕が朝鮮から郷里の農學校の先生となつた頃、君は五師團野砲聯隊に幹部候補生として入隊し、丁度秋の演習が僕の居る地方で行はれ、君はたしか伍長か軍曹でたくましい野砲を引く軍馬にまたがつてゐたが、演習中のこととて微笑をかはしたのみで充分語る事もできなかつた。

あれから十五年を經た本年の一月の中頃和歌山縣試驗場の桑田兄が拙宅に來て君の話も出た。學生時代の勤勉眞面目なこと、入營中の勤務振りが大學、專門學校卒業生中の白眉で聯隊中の模範であつたこと、同期生の誰彼の話等と共にそれからそれへと夜の更けるのも知らなかつた。君の出征した去年の七月頃は僕も覺悟をしてゐた。桑田君も君と同じ砲兵少尉として應召が今か今かと國元から尊父の持參せられた軍刀を撫しつゝ待つてゐたのだ。同期生中では三好圭一君は既に北支の戰線に奮戰して徐州戰にも參加し今病を得て小倉陸軍病院に療養中とのこと。武田君は歩兵少尉であつたが數年前に世を去られ、同じく歩兵少尉の緒方君は桑田君等と同じ氣持で今も元氣で香川縣蠶業試驗に勤務してゐる話も出た。

小島君、君は學生時代から軍隊生活と眞面目と不言實行で何事もおし通して來た。この度の戰にも君のこの性格を實踐したことだらふ。だから君は病に斃れ、生命をもたゝれたのだ。

しかし君だけは死なしたくなかつた。ぜひ生きて歸つて貰ひたかつた。

君も卒業以來岡山縣の津山時代の苦難が長かつた。新潟から群馬縣へと行政方面の軌道に乘りかけた、今からと謂ふ所で斃れたのだ。君も口惜しからふが、僕も惜しい。僕達の仲間で行政方面には洵に人が尠い。寥々として曉の星の如しだ一人減り、一人減りしたのではなくなるではないか。心細い限りと謂はねばならぬ。

聖戰開始以來三年、その間知友、親族の應召、或ひは名譽の戰死を聞くこと一さいではない。その度に銃後に殘る僕等は身のひきしまるのを覺へる。尊い血潮で染めた支那の大陸だ。東洋永遠の平和を確立せねばならぬ。他に何物もない、これが尊い人柱への奉恩であり、生き殘つた大和民族の責務だ。が前途尚遠い。

君は先にいつてもう歸らぬ。僕も必ずあとから行く大陸へ。たとへ戰の庭にたゝなくとも……この感に血が湧くのを覺へる。君の魂魄も江南の地にとどまつて、あとから行つて君の遺業をつぎ大陸經倫をなす者等を見守つてくれるだらふね。

小島君御遺族のことは安心して眠つてくれ。君なきあとの御遺族のことを思ふと、子の父であり、妻の夫である僕は身を裂かれる思ひがする、涙もかれるばかりだ。しかし悲哀に差はないが、氣の毒な御遺族も多いのだ。國民こぞつてお慰めもするだらふ。君なくとも洋君は、丈夫に生長して君の遺志をつぎ立派な人間になられる、どうか安心して眠つてくれ又君の遺業は必ず達せられる日が來るのだ。

東亞建設の尊き人柱、武勳赫々として輝き、護國の神となつて、永遠に我等を守護する尊き小島君の御靈よ安らかに昇天せられよ。

大尾君を憶ふ

山洲生

大尾君の死！　それは全く晴天の霹靂だつた。

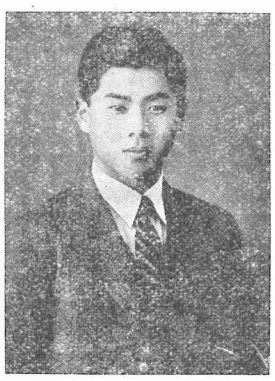
あれ程在學時代元氣で病氣一つした事のない君が僅か二十九才を一期として黄泉の客とならふなんて！

恐らく同級生だつた三十四名の皆が、否君を知る凡ての人々が豫想だにしなかつた事であろう。

今大尾君の死を知り驚愕と悲淋の情ひし〳〵と胸に迫ると同時に在學當時の色々の思出が走馬燈の樣に腦裏に浮んで來る。今その思出を綴つて君が慰靈の言葉としよう。

大尾君の出生地は九州は南の果鹿兒島の鶴の飛來地として有名な阿久根町だ。同じ鹿兒島の生れしかも故都が僅か四、五里しか離れて居ないと云ふ事から直に兄弟の樣に打ちとけてしまつた。

君は眞に温厚篤實、品行方正と云ふ型の模範的な學生だつた。我輩の樣な野暮な我儘者をよく無言の裡にたしなめて呉れた。二年のとき修巳寮で同室に起臥して貰ひ其の間に受けた有形無形的な君の



感化は我輩にとつては一生忘れる事の出來ない事だ。

君は非常な努力家だつた、毎日缺かさず講義の整理など赤インクで叮嚀に記入して居たそのときの横顔が今でも判然と我輩の眼底に生きて居る。

君の油畫の巧さはその當時校内知らぬものなしと云つてもいゝ位だつた。毎年ある甘茶會に出品して異彩を放つたものだ。君が畫いた靜物「結球白菜に野菜物數點を配したもの」なぞ君の人格の圓滿さをよく繪の上に現はして居た。此の一點は後學校の應接室に飾られて長い間人々の眼と心を樂しませて呉れた、今もなほ君の遺品となつて應接室に飾られてあるかも知れなが。

君は又文章も巧みだつた。校友會雜誌の第二四號の「青年の意氣」と題する一文など文章の巧さと外面女性的と云つてもよい位におとなしく見える君の心の中に燃え盛つて居る男子の意氣の一端を覗かしたものとも云えよう。

女性的の樣なおとなしさの中に確固たる信念の强さを包藏して居たのが彼だつた。カフエーなど誰れが何と云つて誘つても滅多に行つた事がなかつた。

然し堅いからと云つて所謂飲んべ連より排斥される事のなかつたのは君の人格の然らしめる所だ。

君に對する僕の思出は數限りなく有るがさて書かうとすればどれから書いてよいやら迷ふ。書かんとすれば君のあらゆる時の姿が喩に浮ぶ。かへつて數限りなく有るが爲めに取り立てゝ書く事が出來ないのかも知れぬ。

君と最後に會つたのが昭和九年の夏だつた。當時君は阿久根實業學校と女學校の先生を兼務でやつて居た。

久々の歸郷で君と會ひ又君の家を尋ね女學校など見學した。そのとき女學校の先生としての感想を何時もに似合はず無口な君は色々と話して呉れた。それから阿久根の名所大島に渡り其處で一日を愉快に過した。

その時寫した數葉の寫眞は今は最後の形見となり、當時の別れが夢想だにしなかつた生別は死別となつてしまつた。

其後昭和十一年の春君が母校だつた伊佐農林學校に迎へられ、日夜校務の爲めに努力し居られる由を聞いて居た。

君が熱心と手腕とそして頭腦の働きは將來必ず爲す事有るの人物として校長の信任厚く同僚の信愛も深く又生徒の敬信も深かかりし由、此の若き有爲の人材、大尾君の死は伊佐農林學校の爲め又我が千曲會の爲はた又非常時皇國の爲惜しみても餘り有る事だ。

君逝いてすでに數旬、冬去りて春再び巡り來たらんとするとき、年々歳々花は同じけれど歳々年々人同じからずの感を深ふするもの有り。

昔語りし親友の今は幽明境を異にするかと思へば轉た寂漠の情禁じ得ず。

只ひたすらに君の靈よ安かなれと祈るのみだ。

附記

大尾君は過勞の爲か去年三月より肋膜を病んで學校を退き實家にて療養して居られたが遂に去る十二月十二日肺炎を併發永眠せられし由

御遺族は鹿兒島縣出水郡阿久根町赤瀬川大尾ナリエ（妻）長女マリ子（二歳）の二人のみ、同級生諸兄の御援助を乞ふ。

戰地通信

伊藤幸男氏より

餘寒今尚去り難き折柄先生には其後如何御起居あらせられ候や御伺ひ申上候、卒業期を間近に迫へ無かし御繁多な日常を過され居る事と拜察誠に御苦勞至極に奉存上候、其後は意外に御無沙汰を重ね申譯無之次第に候が御蔭様にて不相變元氣にて軍務に精勵龍在乍他事御放念被下度候、然るに今回〇隊より支那語實修員を命ぜられ唯一人遙に六十里離れた現在地に至り目下專ら支那語會話の教育を受講中にて講習期間は約三ケ月少々速成の嫌なきにあらずとは云へ一年生に立戻りて專心致居候、元來今回のこの催しは將來支那に志を得んとする者の爲に特に部隊本部にてその營内より僅か〇〇名に限つて特別教育を實施せるものにて我〇隊でも相當の志願者有之候ひしも幸ひ小生一人選ばれたる次第にて小生も今回の講習を契機としてかね〳〵の心念願を果し度万ケ一除隊出來得たる曉は生涯を支那大陸に送るべくその一前提として敢然應募致したる次第に候へば今後共何分よろしく御配慮被下度衷心より御願申上候、滿洲の小松も今度東洋紡績に方向轉換せられしとか滿洲より大陸支那へと國家政策の中心が推移せる今日尚又多數日本人の日毎の目覺ましい進出振をみて一段とその決意を固め居る次第にて候今年は雪らしい雪もみず春の忍びやかな足音が刻々と迫り何となく長閑なる氣色が滿ちて戰場の初春をしみ〳〵と味ひ居り候、先生の御來支も千曲時報にて承知致し居候が儘にならぬ現在の身とて御會見の機會をも得ず甚だ殘念に存居候、吉池氏も至極元氣尚又一期下の鍛冶町の清水傳君も〇〇部隊に健在にて候、尚〇〇部隊には母袋少尉他多數同窓も居る事なれば何れ面會の機會も有之事と今より樂しみに待ち居る次第に候、討伐にも數度出陣親しく戰場の實感も味ひ彈丸の洗禮も數次相蒙り候も別に負傷もせず全員益元氣にて龍在候、國家總動員總力戰に備へ物資統制を益々强化され日常も定めし御不自由勝の事と愚考龍在候が如何に候や、時節柄くれぐれも御身御大切の程切に祈上居候、先は右御無沙汰御詫旁々近況迄、蒲生先生始め御皆々様にも御無沙汰のみ申上居り誠に恐縮至極の次第に候が御ついでの節によろしく御風聲賜り度御願申上候

（倉澤先生宛）

西川　晋氏より

拜啓　御無音にのみ打過ぎ何卒御海容被下度候、御尊貴様には如何御消光遊ばされ候や御伺ひ申上候、小生御蔭様にて無事乍ら御放念被下度候、今般の漢口戰には常に第一線に進擊仕り色々のスリルグロ面白き事多々有之候、九江より北支那駐屯軍の精鋭部隊に配屬に成り揚子江の南岸を部隊の最外側を猛進擊仕り候友軍は峻嶮なる山岳地帶の要害なる陣地に依り頑强に抵抗する敵を〇〇〇〇〇〇をあびせ粉碎しつゝ息つく暇もなき神速振りを示し候、吾が部隊は最外側通山に ズイ昌より通ずる道路を進擊して刻々敵を粵漢線方面に壓迫して武漢三鎭の敵の背後を衝かんとして居り候も廣東陥落當日武漢三鎭の敵脱走開始せるとかにて急に九十度の方向轉換をなし〇〇圍と相前後して大冶方面に出で惡路を突破し金牛鎭を略し速かに粵漢線遮斷の目的を果し候、九月九江を出で小岳地帶に入りてより常に粵漢線遮斷を口にして居る吾等には粵漢線沿線の賀勝街村にて第一線部隊に破壞された鐵路を見たる時、ひげだら荷進擊の手は皆感激の涙にむせび候、遮斷後けの兵は皆感激の涙にむせび候、遮斷後敵の要地通城を占領するに到り候、通城に警備する事一月餘にて武昌に歸り部隊の配屬を解かれて北支那に轉用される事に相成り候、吾々は漢口を去り數萬の支那兵の血に屍を呑んだ貪慾な表情をもつ揚子江の濁流を下り江岸に浮ぶ景色に去りし日の戰闘を思起し感慨無量の念を抱かしめ候、現在濟南に警備につき居り候先日降雪はまだ解やらず四圍の錯雜せる丘陵は一面に眞白く其處を越えて來る風は内地の嚴寒を通り越した寒さで防寒服を膠して痛くしみとうして來り候、南方に遠く霞んだ泰山、蜿蜒たる大黄河の濁流又それに續く漠々として單調な色彩の無い太平原こそは兩手を上げて吾々を迎へて居るかの如くに御座候、市街は支那町特有の雜沓振りにていやな体臭に閉口する位に御座候、然し單調な色彩のない枯草の様な明暮れを送つてきた吾々にはそうして殺風景な無味な破壞されつくしたる占領直後の都市と異り非常に目を引いた事に存じ候、又いづれ市内の事共御知らせ致すべく候、先日武昌より濟南へ移動の際中北支を境する淮河を渡るときに蚌埠驛の構内にて羽藤泉（蠶二三）に偶然にも邂ひやはり中支にて〇〇〇部隊であり候、一瞬の會話の後再會を約して別れ候も翌日の出發時も異り又野電〇〇〇隊は徐州にて下車するとの事にてとう〳〵永の別と相成り候、然し此の奇遇は人目を忘れる位に嬉しがらせ彼も小生のひげ顏に驚いた事と存じ候、又池内氏の〇〇〇〇部隊〇〇〇を訪ね候も充州方面に警備せられ居るとの事にて面會出來ず實に殘念に思ひ候へ共或は濟南に連絡に來られ面會出來るやも知れずとたのしみに致し居り候、先は近況迄申述候

會員動靜

（三月六日現在）

皆様に宜しく御傳聲被下度候

（倉澤先生宛　二月十四日）

大森　順造（舊職）（住）東京市中野區大和町二一二
矢野　昌雄（蠶一三）（應召先變更）
（召集解除）（勤）明石市大藏谷町、農林省蠶絲試驗場
河野　榮一（蠶一八）（勤）從前通り（住）松本市四ッ谷金山町
塚田　庸男（蠶一九）（應召先變更）
加藤　省三（蠶一九）（應召先變更）
遠山　正人（蠶二〇）（勤）從前通り（住）長野縣南安曇郡豊科町成相
鈴木　正悟（蠶二一）（應召先變更）
松下　嘉博（蠶二二）（應召先變更）
田野　正雄（蠶二三）（勤）新京滿洲國々務院產業部農務司（住）新京興安大路石橋ビル三二七號、電話(2)一四七二
川中　貞次（蠶二三）（應召）
木内　保平（絲　二）（勤）八王子市本郷町八、大東工業株式會社（住）八王子市平岡町三三
沖　濤治（絲　二）（勤）從前通り（住）神戸市須磨區天神町三ノ五
甲斐　孜（絲　二）（勤）熊本市内坪井町一一七、肥後製絲株式會社
大箸　政平（絲　二）（勤）自營（大箸藥局）電話二七三（住）靜岡縣磐田郡中泉町西町（訂正）
小坂田　亮（絲　四）（勤）自營（撚絲業）（住）京都市上京區寺之内通淨福寺
須永　茂（絲　八）（勤）東京市蒲田區西六郷三ノ五九、湘南製作所（住）東京市蒲田區西六郷三ノ三四　古川莊
（召集解除）上田市、長野縣立小縣蠶業學校
山崎　保太（絲一九）（應召先變更）
宮下文四郎（絲二〇）（勤）岐阜縣繭檢定所（住）岐阜縣可兒郡廣見町
秦　彰（絲二〇）（勤）三菱重工業株式會社名古屋發動機製作所技術部研究課
川村　千尋（絲二四）（住）名古屋市東區新出來町五ノ五一、菱風寮内一〇號
（勤）東京市麴町區三年町一、商工省特許局機械部第五課
外城　和（絲二五）（住）東京市世田ケ谷區北澤四ノ四一〇、中土方
（入營）香川縣善通寺町、福村部隊竹内隊四班
高田　正氣（絲二五）（應召先變更）
佐藤　佳良（紡一六）（勤）ナシ（住）山口縣吉敷郡大内村字御堀字小野双福寺内
倉重ウメノ（舊教）ふみ（舊教）（勤）ナシ（住）長野縣小縣郡神川村字黑坪
中村　伊藤は（舊教）（勤）松本市庄内町、長野縣繭檢定所（住）仝上寄宿舍
臼井　和子（教三）（勤）ナシ（住）長野縣東筑摩郡麻績村字明治町
渡邊　きよ（教五）（勤）秋田縣南秋田郡寺内町、秋田縣繭檢定所
北澤　貴代子（教五）（勤）ナシ（住）長野縣小縣郡鹽川村南方
岩本　市郎（蠶一）（勤）ナシ（住）愛媛縣北宇和郡泉村（訂正）
山田　良人（絲一八）（勤）從前通り（住）上田市坂井田町倉澤方（二月號時報訂正）

御挨拶

昨年五月に湯川さんのお招きにより西豊の柞蠶種繭場に參りましてから前後八ケ月に亘り色々と皆様の御指導や御聲援を賜りましたが何一つとして足跡を殘し得ないでこちらに歸つて參りました私の微力と不德をおはづかしく思ふばかりでございます新京ではまたものとほり產業部につとめることになりました。どうか相變らずよろしく御指導下さいますやうお願ひ申し上げます。

新京
產業部農務司
出野　正雄

御挨拶

◇私は三月號限りで千曲時報編輯兼發行人を辭させて戴く事になりました。九年五月須田氏の後を襲つて以來五ケ年になります。その長い間大過無く勤めおはせました事は偏に會員諸兄の多大なる御援助に依るものと深く感謝致します。同じ人間が長い間編輯に從事する事は兎角に内容に新鮮味を失ひ且つ編輯人自身も熱が冷めて來るものです。その意味に於てはむしろ長過ぎた感があります。バトンを引繼いで呉れる小松忠一郎氏は之の方面に於ける卓越せる手腕と强き責任感を持たれた方です。必ずや近き將來に於て本紙が面目を一新して諸兄に見える事あるを信じて疑ひません。何卒私同様御後援あらん事を切望致します。翻つて考へまするに五年もと云ふ長期間やり乍ら唯長いと云ふ丈で何等の改良も進歩もなかつた事に對し誠に慚愧に堪えません特に時報册子に變更の件は多くの支持者があり私も熟望してゐたに拘らず經費の關係上實現出來なかつた事を殘念に思つてゐます。以上を以て編輯兼發行人辭任の挨拶旁々御禮の言葉と致します。

昭和十四年三月　香山清和

編輯室より

今回は香山主任が辭任し、新たに小松主任が就任と言ふた移動があり、又學年末の任務も各自あつて忙しかつた。然し新たに新會員も加はる事であるし、丁度卒業式のある發行日に間に合はすべく馬力をかけた。

曩に滿支視察旅行より歸られた倉澤理事は母校の爲にも又吾が千曲會滿支產業調査會の爲にも有益なる資料の數々と、現地同窓生の活躍等種々豊富な話題を持來られたが其の一部を第一面の「滿支漫筆」として職務御繁忙中殊に先頃より中耳炎にて御不快の所にも拘らず特に御執筆下さつた感謝の外ない。

又「代議員會議事抄錄を見て」「品種名雜考」「養蠶と煙草」等誠に本時報に適切なる記事が投稿され感謝に堪えない。今後共第一、二面記事の多數投稿されん事を希望する次第。

「日本一農產加工場」の記事も會員に紹介するには誠に結構で、刺戟される所少くないと考へる。更に慾を言へば、該記事が直接本時報掲載の爲に頂きたかつた事が直接本時報掲載の爲に頂きたかつた

昭和十四年度蠶種案内

○交雜種
× 浙龍華 × 江仙華
× 滿龍華 × 月華系仙
× 浙龍華 × 江仙（新）五粒定粒用
× 滿分離月白一系號
○原蠶種
龍分離白一號華仙
滿分離白二號月系
浙江國蠶支一〇六號
○病毒皆無

廣島縣御調郡奥村綾目八七六
蠶種業　小川保
電話市村局十一番　廣島二〇七六三番
振替大阪二四六番
電報別便配達料不要